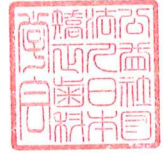


2019年6月5日

公益社団法人 日本矯正歯科学会 ポジションステートメント
マウスピース型矯正装置による治療に関する見解

公益社団法人 日本矯正歯科学会



- 1) インターネット上で、歯科医師が介在しない形でマウスピース型製品が販売され、歯列の改善への有効性を謳うケースが出てきています。矯正歯科治療は、正確な診断や精密な治療計画に立脚して行われるべき医療行為であり、誤ったマウスピース型製品の使用は予期せぬ大きな問題を引き起こす可能性があります。患者自身の独自の判断でこれらの製品を使用し歯の移動を行うことは、歯科医学的にも非常に危険であるため絶対に避けてください。
- 2) マウスピース型矯正装置による治療には、以下の利点・欠点を踏まえた適応症の判断や専門的知識を要することから、大学病院等や学会が認める基本研修機関において十分な矯正歯科領域全般にわたる基本的な教育と臨床的なトレーニングを受けた歯科医師による診察、検査、診断を基に治療を行うことを推奨します。

欠点

- 歯の移動量の少ない症例に限られる（軽度の乱杭歯、軽度の歯の空隙、矯正治療後の軽度の後戻り等）。
- 毎日長時間の装着を必要とし、使用状況によって効果が大きく異なる。
- 小児や骨格性要因を含む症例には適さない。
- 現在の医療水準で考えれば精密な歯の移動は原則として困難で、満足のいく治療結果が得られない可能性がある。

利点

- 他人から見えにくい装置である。
- 装置の着脱が簡単で食事や歯磨きがし易い。
- 金属アレルギーを有する方も使用できる。
- 診療室での治療時間が比較的短い。

参考資料：公益社団法人 日本矯正歯科学会 アライナー型矯正装置による治療指針

マウスピース型矯正装置による治療に関してご不明な点があれば、かかりつけ歯科医または日本矯正歯科学会認定医等にご相談されることをお勧めします。